

彙 報

國都建設落成式迫る

新京國都建設局土木科長 伊地知網彦

滿洲國諸建設の最も顯著なる、又最も國家的意義深き大事業として内外の耳目を集めてゐる國都建設第1期5箇年計畫事業はいよいよ今年末を以つて豫定の完成を告ぐることとなつた。政府は之の國家的完成を記念奉祝すべく本月16日17日の兩日を卜して、滿洲國の都鄙を舉る全國民の記念式典を舉行することとし、目下之が準備に没頭中である。特に新京に於ては其名も高き大同公園に於て官民代表三千數百名參列の上嚴肅盛大なる式典が行はれるが、漏れ承る所によれば當日は長くも 皇帝陛下の御臨幸並新建設市街御巡幸の光榮に浴し、又優渥なる勅語を下し給ふとのことである。

當日は奉告式直後園内碧波塘畔に於て陛下御臨御の下に御賜餐の儀が執り行はせられる。又大同廣場に於ては宏壯なる篝火臺を圍む崇高なる點火式、百萬人の合唱等があつて記念歌の合唱は空もとどろに響き渡るであらう。其他市民の夕や日滿交匯の會等、賑かな意義深い各種催が各係り係に於て計畫されてゐる。従つて此の兩日は、樂土建設の理想を具現せる國都誕生の歡びに全滿は歡喜の坩堝に化し去ることと思はれる。今國都建設5箇年の業績を次に示したい。

國都建設第1期5箇年計畫 事業概況 (康德4年8月)

國都建設第1期5箇年計畫事業は大同元年より本康德4年12月に至る5箇年に於て、事業執行區域100平方キロの中、既成市街を除ける21.4平方キロの地域に工費3,400萬圓を投じて執行し來れるが當初の計畫に大なる變更を見ずして進捗し、幸に大過なく豫定の彼岸に到達することを得たり。今工程實施の蹟を回顧するに大略次の如きものあり。

1、土地買収並賣却

建設事業執行區域の用地買収は國都建設局開局と同時に着手せるが公正妥當なる買収價格の決定には最も苦心を拂ひ、收獲還元依る一畝地の算出價格を基礎として各方面と協議の結果標準價格を決定せり。

康德3年末に於て大體の完了を見たるが其買収面積約93平方キロ、其買収並補償金約900萬圓に達せり。

當局特別會計唯一の財源は施設濟の市街地を賣却し、之に於て生ずる收入金を充つるものなるを以て當局は全力を傾注して之が良果を企圖し來れり。而して大同2年6月第1回土地賣却

處分以來康徳4年7月現在に至る賣却總面積は12,890,877 平方米にして其賣却收入金額14,966,463圓なり。

2、道 路 建 設

市面積の21%を占むる道路築造系統に於ては2線直角交叉を原則とし之に放射系統、循環系統を加味し、各種アスファルトを舗装し、適切なる道路勾配と獨特の縦斷曲線長を採用して交通の爽快を計りつゝあるが、第1期事業區域内の道路、橋梁、宅地造成等の基礎的建設は豫定の築造を了り、目下區域外の新線計畫をも實施しつゝあり。

康徳4年7月現在に於ける道型築造は面積5,260,587平方米、延長304,189米にして舗装道路面積は1,012,010平方米なり。

3、上 水 道 建 設

國都に於ける豊富なる水源獲得に就ては長春時代に於ける水飢饉の事實に鑑み特に早急施設の必要に迫られたり。依て當局は百方探求したる結果地下約100米に於て一大地下水層の展開するを發見し、大同元年9月大同公園内に深井戸を築造せるを始とし、事業開始以來築造したる水源井は深淺併せて20個所、現在11,000立方メートルの湧水能力を保持せり。

急施的水道は以上の鑿井に據りて當面の問題を解決したるが、深層湧水量には自ら限度あり茲に於て人口50萬に對する大水道計畫樹立の必要を認め、康徳元年5月工費350萬圓を投じ2箇年繼續事業として淨月潭貯水池築造工事に着手せり。貯水池は康徳2年10月、附帯施設は同年11月完成し、康徳3年1月より通水を開始せり。本貯水池の1日給水能力は40,000立方メートルも南嶺淨水場の濾過能力は之を20,000立方

米に止め、本康徳4年7月現在の給水量は地下水7,000立方メートル地表水8,000立方メートル、計15,000立方メートルを保持しつゝあり。

配給水錢管敷設工事は大同元年10月より着手し、既に豫定地域の全圓を完了せるが其總延長179,965米に及べり。

4、下 水 道 建 設

下水道計畫は地形に應じて9個の獨立せる排水區域に分割し、更に之を50有餘の排水系統に分ちて分流式及合流式により之を處分しつゝあり。本方針により初年度以來極力事業の促進に努めたるが水洗式廁の徹底的實施を行ふ等一意衛生都市の指標たらむことを期しつゝあり。

初年度以降工事の完成せる區域は安民大路、至聖大路以北に於ける殆んど全市に亘り、其面積9,490,000平方米敷設延長295,600米に及べり。

5、公 共 諸 施 設

事業區域内に散在する大小の起伏を利用して大同2年3月以降降成中の大同、白山、牡丹、順天、和順の五公園は何れも80乃至95%の完成を示し、黃龍公園内に築造中の面積62萬平方メートルの南湖も本年7月堤防築造を完成して漫々たる水を湛へ國都に一大風光を點せむとしつゝあり。

此外大同廣場、南嶺綜合大運動場、賽馬場ゴルフリンクス、消防署、墓地、屠場、特殊病院等各れも豫定の完成を見つゝあり。

當局は夙に之等諸公園、街路樹並一般市民に供すべき各種樹木の補給に留意し、特に種苗園を設けて之に數十萬本の種苗を育成し、適性試験を行ひ、國都の綠化に努めつゝあり。

6、建 築 取 締、指 導 並 助 成

國都建築の健全なる發達を期し、夙に建築指

示條項を制定して一般建築の積極的指導に當り極力局を利用せしむると共に土地不案内の建築技術者及作業者をして緊密なる連絡を保たしめ混亂防止と指導とに努力し來れるが、煤煙防止に關しても之が對策を研究し規格を設けて一般の勵行を指導しつつあり。

國都の市街建設は官公、會社等の簇立と共に大いに面目を改めつつあるも、一般建築の進展こそは尤も核心的要素たるを以て何等かの方法を講じて之を助成せしむる必要あり。

即ち關係各機關協議の結果、康徳元年5月國都建設助成融資損失補償法並同施行令公布せらるゝに至りて茲に活潑なる助成金融機關の活動を見るに至れり。事業開始以來康徳4年度に亘る事業執行区域内建築物は官民合せて約 3,400 戸、其の建築費 6,300 萬圓に上れり。

年度別建築數量次の如し

建設区域内年度別建築物完成表

(1) 大同2年度完成建築物

滿洲國關係廳舎	5棟
其他官公會社	2棟
特殊住宅	547戸
一般建築物	160戸
内譯 { 官公會社	7棟
住宅店舖	707戸
合 計	714

(2) 康徳元年完成建築物

滿洲國關係廳舎	2棟
---------	----

其他官公會社	9棟
特殊住宅	971戸
一般建築物	795戸
貸室貸事務所	185室
吉林大路	130戸
合 計	2,092

(3) 康徳2年度完成建築物

滿洲國關係廳舎	5棟
其他官公會社	7棟
特殊住宅	1,225戸
一般建築物	1,325戸
貸室貸事務所	538室
吉林大路	403戸
合 計	3,503

(4) 康徳3年度完成建築物

滿洲國關係廳舎	2棟
其他官公會社	40棟
輕工業地	17棟 14戸
鐵道用地	11棟
特殊住宅	258戸
一般建築物	1,342戸
貸室貸事務所	344室
吉林大路	253戸
合 計	2,281

(5) 康徳4年度完成建築物豫定數

約1,300

約6,000,000圓

(6) 三層樓房以上建築物總數 113棟

日本より土木技術者を招聘

最近吾滿洲國の土木關係事業は産業5箇年計畫事業の着手と共に益々多忙を極め土木職員の

拂底を來し各關係官廳共に困惑の狀態である。交通部ではこの狀勢を幾分でも緩和する爲め今

回日本の内務省宛土木事業に數年間經驗ある者の招聘方を申入れたる結果日本に於ても土木事業の多忙なるにも拘らず快諾を得て第1回渡滿者42名の決定を見た。その所屬は内務省の名古屋、仙臺、新潟、大阪、東京、下關の各土木出張所及び千葉、岡山、栃木、鹿兒島、鳥取、東京、青森の6府縣であつて交通部内に於ける配屬は本部及牡丹江、齊々哈爾、圖門の各土木

建設處であつて既に全員新京に到着しそれぞれ配屬箇所に向つて出發した。一同何れも智識經驗共に優秀にして而も元氣潑利として來任せられたるは誠に在滿技術者として心強き次第であつた。

尙第2回招聘として各省公署採用職員として現在内務省に申込中の者約40名あり、近く續々來滿される筈である。(9.3米田)

今 次 の 水 害 状 況

航 路 司 照 井 技 佐

康徳4年7月下旬8月上旬よりの豪雨は南北滿各地の河川を氾濫せしめた、其の被害状況を列擧す(9月3日迄の報告に依る)

1. 錦州省管下災害状況

錦州市

錦州市は小凌河の氾濫にして8月上旬より12日迄の浸水家屋9,500餘戸、其の内半壊2,280戸、全壊1,200戸、流失7戸なり、人畜死傷は死亡及行方不明9名、負傷36名、斃51頭、耕地浸水8,250畝、道路破損箇所26箇所、此等の被害見積額2,000,000圓に達せり。

錦 縣

浸水耕地1,939天地、浸水家屋3,509戸、其の内半壊2,818戸、全壊3,375戸、電話大半不通にして道路破損甚大なり。

且つ8月5日より20日迄、罹災者給食延人員は35,083名にして之の金額1,385圓なり。

黑山縣

8月10日現在浸水耕地300天地なり。

8月20日夜來の降雨(90耗)は大鄭線八道溝

の南方6杆の鐵道線路盤530米及び芳山鎮の北方8杆の鐵道路盤70米を流失せり、又縣下は連日の豪雨により家屋浸水倒壊續出し耕地被害甚大にして、縣城内は家屋全壊7戸、半壊35戸に達せり、縣下第2區溝帮子附近は鐵道兩側浸水5尺に及び奉山線は不通となれり。

興城縣

8月12日の報に依れば浸水家屋11戸、倒壊4戸、耕地浸水11天地又被害道路は縣城より梨樹溝間20杆、縣城より新臺邊門間10杆縣城より錦西間4杆、及河涉路40米なり。

綏中縣

8月上旬よりの降雨に依る浸水耕地4,200天地、道路破損50餘箇所、土橋流失10餘箇所、損害額約8,000圓に達し、又23日以來の降雨の爲めに縣下電話不通となり。

耕地の被害も相當甚大なる額に達せり。

北鎮縣

橋梁破損10箇所にして、家屋浸水41,000戸

其の内半壊1,451戸、全壊及流失11,710戸、家畜流失1,695頭、耕地浸水 33,278天地にして其の損害見積總額14,387,122圓に及べり。

錦西縣

女兒河の氾濫にして半壊及全壊家屋 400 餘戸浸水耕地 83,577天地、農作物減收率は50%損害見積額 7,875圓に及べり。

盤山縣

双臺子河の氾濫にして全壊及半壊家屋 500 餘戸、浸水耕地 23,700天地、道路破損 16,800 米、橋梁破損29箇所なり。

朝陽縣

被害相當甚大にして電話、電信、不通となれり。

阜新縣

鐵道、電信、電話不通となれり、被害家屋 100餘戸、浸水耕地5天地なり。

義 縣

鐵道、電信、電話不通となり、被害家屋400 餘戸に及べり。

遼安縣

双臺子河及遼河の氾濫にして家屋半壊 590 戸全壊506戸、死者6名又耕地被害 33,400天地、道路破損78箇所延長 615 米、橋梁破損13 箇所 516 米にして、被害見積額 263,856 圓なり。

以上の如く錦西省管下殆んど全縣水害蒙れり。

2. 安東省管下災害狀況

安東市及安東縣

沙河鎮驛前舊堤防一部缺壞し市内の浸水家屋6,000戸、避難民30,000名に達し交通は全部杜絶し、船舶に依らざれば交通不能とな

れり。

安東一桓仁間、安東一大孤山方面の電信電話も不通となれり、耕作物被害は主に野菜なるが殆んど全滅し約 35,000圓の損害にして總損害額は 500,000圓の巨額に達せり。

鳳城縣

本縣に於ける被害も相當甚大にして魏河の氾濫により、交通杜絶し家屋倒壊多數に上り、石山子部落に於ては家屋倒壊50餘戸に達し、又溺死者も相當多く、救助されし者 230 名餘りなり、又魏河沿岸の農作物は殆んど全滅せり。

桓仁縣

渾江の氾濫による被害多數に上り道路損失甚だしく交通亦杜絶せり。

寬甸縣

渾江支流の蒲石河の氾濫は交通を杜絶し寬甸一桓仁間全く交通不能となれり。

岫巖縣

道路損害甚だしく交通亦杜絶せり。

3. 奉天省管下

今次の水害は遼河流域最も甚しく、遼中、新民地方の農作物は高粱以外殆んど全滅し海城、營口縣は耕地面積の $\frac{1}{3}$ 全滅せり。

西豐縣

遼河支流冠河の氾濫に依り開豐鐵道は25日より不通。なほ縣内電話は不通となれり。

開原縣

被害甚大にして電話不通となれり。

新民縣

8月6日縣内遼河氾濫し、浸水耕地面積は全面積の80%に及べり。遼河の洪水に依り、8月6日大郭蒙窩堡村は其の被害實に大にし

て浸水耕地 15,987畝、主なる被害穀物は高粱6,730石、豆類5,912石、穀子2,820石其他52石、被害額 14,900圓になり、第8區長崗林、馬家屯、平坨子等の村落の浸水耕地は 13,465畝にして損害見積額は 67,425圓に達せり、又第2區後邱屯村は洋河の氾濫を蒙り被害耕地15,000畝にして、其の損害額6,970圓に及び、道路損害額 1,110圓なり、第3區王家河套村も8月7日洋河支流蒲河の氾濫により耕地 7,900 畝は浸水せり。

新立屯及附近村落は8月5日の洪水に依り浸水耕地 17,600畝にして其の主なる被害穀物は高粱7,296石、穀子2,254石、豆類 6,588石等にして損失額 10,082圓なり。

繞陽河及支流も又 8月21日氾濫し其の流域一帯の村落にして浸水耕地 50,580畝其の損失額は實に 169,300圓に達せり。

營口縣

今次の水害に依り浸水家屋 5,000 戸、倒壊家屋1,106戸、半壊家屋1,428戸にして死者3名を出せり。

本溪縣

浸水家屋41戸、倒壊 5 戸、死者 1 名。

蓋平縣

蓋平河の氾濫により浸水家屋 751 戸、倒壊家屋232戸、半壊家屋519戸の損失を生ぜり。

鐵嶺縣

遼河本流及柴河の氾濫にして浸水家屋 2,000 戸、倒壊家屋122戸を生ぜり。

撫順縣

洋河の氾濫にして浸水家屋131戸に及べり。

復 縣

復州河に依るものにして浸水家屋94戸、倒

壊家屋79戸なり。

清原縣

洋河上流の氾濫にして浸水家屋90餘戸、倒壊家屋 9 戸、人畜の被害も多數有り、警備道路も數箇所破損するに至れり。

遼中縣

遼河の氾濫にして浸水家屋300戸、倒壊6戸に達せり。

4. 通化省管下

通化縣

8月1日第4區快大茂子、第1區銀麻子を除くの外警備電信は不通となり、又 6 日に到りて第3區大羅圈海橋梁13箇所流失し、道路破損28箇所延長 4,958 米、橋梁破壊51箇所延長 553 米となれり。

金川縣

8月1日警備電話不通増水 6 尺となり浸水耕地は 2,147畝、損害見積額630圓にして此の外道路破損 7 箇所延長 8 軒、橋梁破損16箇所となれり。

輯安縣

8月1日より 9 日に至る間交通杜絶し郵便物の追送不能となれり。

柳河縣

8月2日には浸水家屋93戸倒壊34戸橋梁破損 84箇所なり、8月3日には堤防破損8箇所、浸水耕地 24,885畝、收穫不能地 14,182畝、平均減收 6 %にして之れが損害見積額は 22,035 圓に及べり。

又8月6日には浸水家屋256戸全壊117戸、半壊家屋 9 戸出し浸水耕地32,154 畝にして農作損害額120,000圓に達し、7日には道路流失3箇所延長 4.5軒、破損 2 箇所を生ぜり。

康徳4年9月

戸なり。

の氾濫にして浸水家屋90餘戸、
戸、人畜の被害も多數有り、警
備所破損するに至れり。

蓋にして浸水家屋300戸、倒壊6

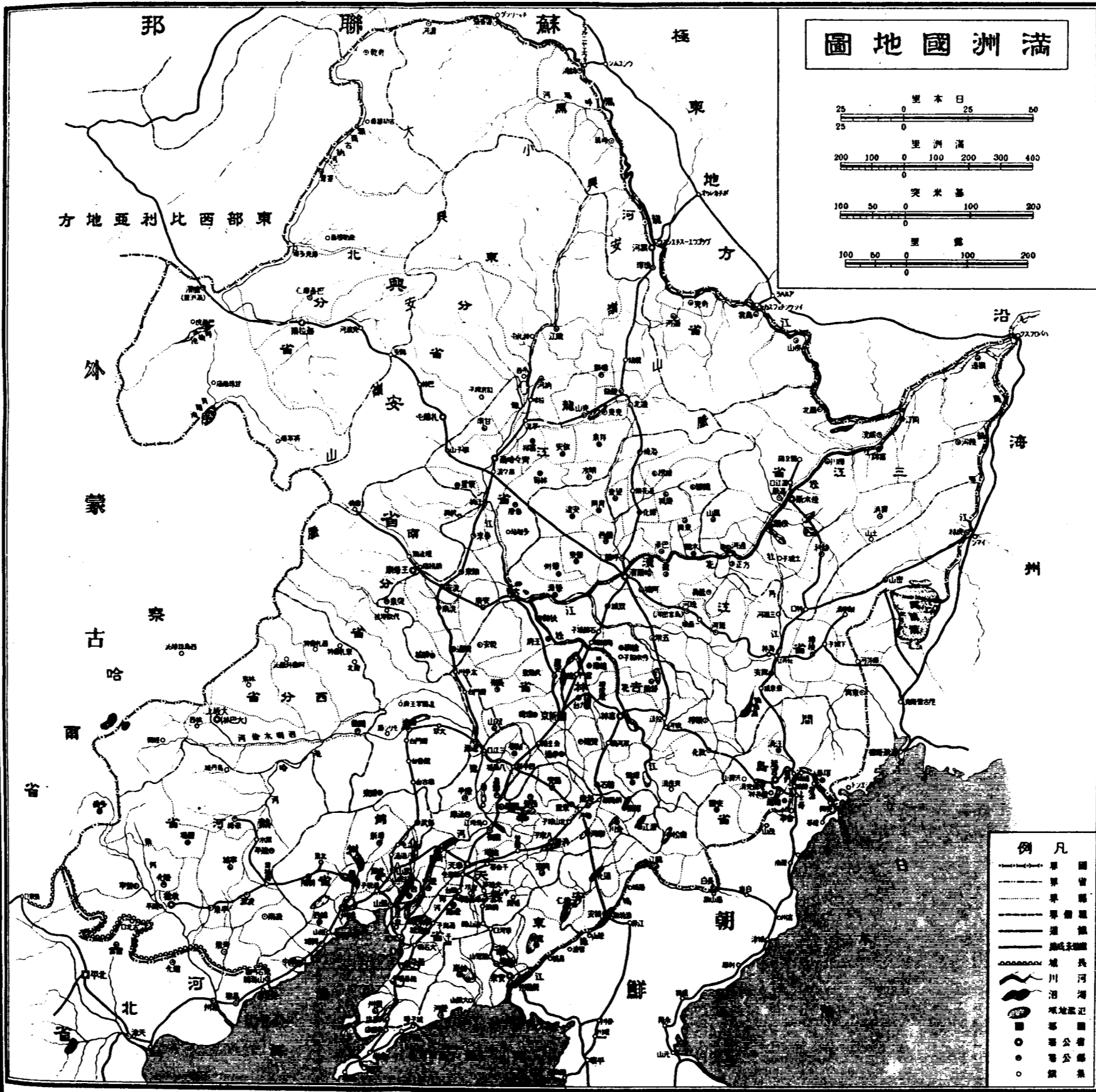
4區快大茂子、第1區銀麻子を除
電信は不通となり、又6日に到
大羅圖海橋梁13箇所流失し、道
所延長 4,958 米、橋梁破壊51箇
米となれり。

備電話不通増水6尺となり浸水
7畝、損害見積額630圓にして此
損7箇所延長8軒、橋梁破損16
り。

り9日に至る間交通杜絶し郵便
能となれり。

は浸水家屋93戸倒壊34戸橋梁破
り、8月3日には堤防破損8箇所、
4,885畝、收穫不能地 14,182畝、平
にして之れが損害見積額は 22
なり。

には浸水家屋256戸全壊117戸、
戸出し浸水耕地32,154畝にして
額120,000圓に達し、7日には道路
延長4.5軒、破損2箇所を生ぜり



臨江縣

鴨綠江及渾江氾濫し8月3日に於ける被害は道路破損4箇所、流失6杆、浸水戸數110戸にして、床上2尺5寸乃至4尺の浸水を見、倒壊家屋9戸、浸水耕地面積1,032畝にして農作物損害見積額1,784圓に及べり。

8月4日浸水耕地面積10,000畝、農作物損害4,000圓、道路破損5箇所延長4杆、橋梁破損20箇所延長300米に及べり。

8月5日に於て第5區三岔子水害状況は浸水家屋68戸、道路破損3箇所延長5杆、橋梁流失14箇所延長100米に達せり。

8月6日、5日より6日の降雨に依り又々俄かに各河川は増水し鴨綠江に7尺渾江5尺に達し之れが爲め道路流出6箇所、延長180米、破損7箇所延長1,000米、橋梁流失23箇所延長120米、橋梁破損8箇所22米、浸水家屋24戸、浸水耕地面積185畝にして農作物損害見積額は678圓に達したり。

濛江縣

8月4日より交通全く杜絶し、橋梁流失7箇所、道路流失破損數箇所に及べり。

撫順縣

8月5日には交通全く杜絶し7日に於て浸水家屋228戸、倒壊家屋12戸、浸水耕地913畝、橋梁破損21箇所、道路破損32箇所等甚大なる被害を蒙れり。

輝南縣

8月7日輝發河の氾濫に依り浸水面積24,440天地、流失家屋140戸、浸水家屋1,183戸、橋梁流失33箇所にして、通信不通となり見積損害額40,800圓に達せり、又縣内鮮人經營水田被害は、流失耕地29天地、浸水耕地3

35天地にして之が損害見積額9,600圓なり

5. 吉林省管下

8月初旬より20日迄の被害状況は、下記の如し。

永吉縣

浸水耕地1,800天地、流失橋梁2箇所にして、浸水家屋は尠少なり。

盤石縣

浸水耕地1,000天地、流失橋梁3箇所にして浸水家屋は44戸に達したり。

樺甸縣

浸水耕地1,470天地、浸水家屋850戸の多數に及べり。

舒蘭縣

浸水耕地326天地。

九臺縣 浸水耕地 326天地

榆樹縣 浸水耕地 2,936天地

農安縣 浸水耕地 1,150天地

德惠縣 浸水耕地 5,000天地

合 計 浸水耕地 19,620天地となれり。

6. 間島省管下

8月10日に於ては數日前よりの降雨に依り京圖線老頭溝、銅佛寺驛中間に於て線路2箇所崩壊し列車不通となれり。

8月14日朝よりの豪雨に依り朝陽川、龍井村間橋梁流失し列車不通となれり又龍安森林鐵道も龍井村、二道溝間に於ては4箇所破損し不通となれり。

7. 三江省管下

7月29日より8月10日に至る間管下全般に降雨有り岔林河、倭肯河、牡丹河及支流、富錦方面出水し其の損害甚大なるものにして特に移民地の損害は甚大なり。彌榮村の被害見積額

は180,000圓に達し、又千振村の被害も彌榮村に劣らぬものがあり、其の被害見積額は152,000圓に達せり。

8. 龍江省管下

濱江省管下は大した被害もなく、龍江省克東縣呼裕爾に於ける橋梁損害は3箇所に及べり。

9. 熱河省管下

8月初旬よりの降雨に依り列車一時不通とな

れり又電話等も不通となれり。

然し14日には開通し被害は特記する様な事なし。

10. 興安南省管下

興安南省に於ては8月上旬頃通遼縣黃河(遼河)橋梁護岸破損せる程度にして興安西及興安東省には被害なし。

戦友關、藤原兩君を悼む

本 莊 秀 一

倭友關、藤原兩君の殉難は、全く現はし切れぬ傷手を残して行つた。それ故今尙兩君の不幸を眞實なことに思ひ切れぬ有様なのだ。

冀東の活水、水利の計畫事業に全力を盡し、しかもその事業のため、その國のため兩君は尙春秋に富む働き盛りの身を通州の露と散らした兩君と共に冀東の事業は消し飛んだ、この事實だけははつきり認識出来る。

願くば諸君、將來日本の土木技術が中國の土地を測量し、山を掘り、地を拓いた歴史を編纂するときが來たなら、其の第一頁は兩君のために割いて必ずや關、藤原の名を記載しやうではないか。又他日亞細亞大陸土木技術の進軍が北支の野を通過するときは、之の第一線の名譽の殉職者に對し秋草繁る通州城頭に心からなる手向け草を供へ、進軍の歡びを傳へ様ではないか。

山來日本より支那へ技術のために渡りたる人

は多いことだらうが、日本との契繩を斷ち切り中國人の間に伍しその國の官吏となり、その地に家を持ちその國民のためその國土のため力を傾倒したる上しかもその國土國民を守るべき保安隊のためあへなく斃れたる日本技術者恐らく兩君を以て最初とする。

吾々は、他日大陸進出の日本土木技術者の記念碑として、兩君通州殉職の記念日8月1日を心に銘記せられんことを望む。

今此處に兩君追悼の文を記するに當り、藤原兩君のことを別々に切り放して考へることは下の兩君としても本意なきことと思ふから少し繁雜になるが一緒に書くことにする。

關君と會つたのは6月16日を以て最後とす。13日から三日間冀東政府と滿洲國との間の道河川に關する聯合協議會を開いた折滿鐵產業も一緒になつて相談した結果、豫期の効果を上げ「これで駐屯軍からの使命も果せた之れか

歸つて打合をして本式に相談を持ち出さう」と云つて喜んで歸津したのが最後だつた。その折も調査、測量、會議のため永く滞在出来ぬからと約 3 日間江君と一緒に中央ホテルに泊り乍らどしどし片付けて行つた。そのとき中央銀行クラブで最近の北支の建設と云ふ題で一場の講演を行つたが之れが最後の新京行とは神ならぬ身の誰も考へる筈もなく驛頭君特有の微笑を残して歸つて行かれた。

藤原君とは 2 月 18 日新京驛にて御夫歸を見送つたのが最後となつた。2 月 15 日天津から歸任して見ると行き遠ひに藤原君が家族を引連れに新京へ来て居られた。そのとき小生へ子供を交へて三人で最近撮つたと云ふ一枚の寫眞を置いて行かれた。自分は之れを眺めて「君は某縣土木課長見たいに寫つてゐるぞ」と云つたのを覚えて居る。それほど君の容貌は端正でジェントルマンライクだつた。

關君を北支に残して來たのは小生であり、最適任者として當時の土木局に進言し、又天津軍にも推薦したのも皆小生の申し出だつた。

又藤原君の冀東政府入りは關君の懇望によるもので昨年關君の主管して居る冀東水利委員會が冀東の治水、水利計畫を樹立し、愈々調査、測量の實施に當り、之れが實行者をして藤原君を懇望して來た。當時藤原君は全滿の水位、流量の調査に寧日なく活動中であり、實によく研究し、新しき滿洲の特性に適した量水器とか機具とかを考究して居るときで正になくはならぬ人であつたが、關君の懇望と藤原君の前途と又北支の事業とを考へ、特に上司の許可を得て、北支の野へ御送りしたわけだつた。

關君は休職委任官として支那駐屯軍囑託、冀

東政府水利委員會設計處長代理として約 1 年在職せられたが今回の殉職により、更に滿洲國交通部技佐に昇進せられたことは諸君の既に御承知のことだ。

藤原君は退職委任官として、冀東政府書記官待遇官として約 10 箇月冀東内の現地を馳驅し、今回の殉職により、支那駐屯軍囑託に任じ、關君と同様に靖國神社に祭られることになつてゐる。

兩君とも誠に得難き人だつたことは、同様に三重縣土木課在職當時より二人は互の協力者で關君が外部的にどしどし仕事を纏めて行くのを藤原君は忠實に任事を実行に移して行くと言ふ實に之の上なきよいコンビであつた。

小生としては兩君の性格手腕に對し何とも讃辭を呈し様がない位で全く稀に見る人物だつた之れが突然心なき保安隊の手により失はれんとは全く不幸の極みである。その國土を開拓せんとして其の國の土となる。男兒の本懐とも云へるが又之れほど時機を得ぬ本懐があり得様か。之の點中國人は胸に手を置いて考ふ可きである日支の提携と云つても色々の提携があらう。又手段としては軍閥も提携しやうし、資本家も提携しやうが之れは局部的なもので何等本質的な民族の提携ではない。

結局は兩國民の血と汗になる生活の提携でなければならぬ。即ち兩民族互の生活の浸透と理解とであり、即ち兩民族の協和の世界の實現に外ならぬことと思ふ。

之れがため、日本の技術も動員せねばならぬし、唯日本の内地の山を崩し、川を浚ふばかりが全部ではない。餘力を以て有り餘る人員を以てなぜ日支民族の共同戦線に進出しないのか。

内地の賢明なる當局者は既に考へて居られることと思ふ。自分の経験より云へば結局は日本の國が餘り住み心地よい爲めその進出を鈍らかすからなのだ。

日本の土木技術も大陸に於て始めて第一戦の犠牲者二人を出した。今こそ考ふべきときだ。

之の文を譯んで在滿の土木技術者並に日本の諸兄へ呈上し關藤原兩君への手向草とする。

故關、藤原兩氏の通州遭難を悼む

米 谷 重 松

蘆溝橋に事端を發したる暴戾不遜の支那兵追放の聖戦は其無謀なる反抗のため遂に支那事變となりて次第に擴大せられ北支到る處兵火の巷と化し騒然たる中にあり獨り之に接壤する冀東地區は肅然たる治安維持せられ、特に政府所在地通州は北平より約20數軒の近接地にあり乍ら安居樂業の地として内外共に相許す古都なりしなり。

然るに計らざりき7月29日未明3時頃相續く銃砲聲通州城内の靜寂を揺り動すや同一團塲内の二棟に別れたる政府公館にありし關、藤原兩家の人々は期せずして褥を蹴つて暫し外部の模様を窺えるが之より先7月初旬夫人及令嬢を天津へ送り單身公館に獨居せる關氏は白ワイシャツに乗馬袴の輕裝にて藤原氏公館へ駈け付け如何なる事態惹起せるならんと不安の中に語り合ひしが結局二十九軍廢殘兵の襲撃にて城内保安隊之に應戦せるもなるべしとて關氏は一先づ其公館に引返したり。然るに程もあらせず、表門を破壊する音と共にどつと約十數名の武装せる一隊邸内に闖入し來れり。藤原氏一家の人々は窓より此有様を窺ひ其服裝より意外や日頃保

境安民の任にある冀東保安隊なるを發見し初めて其叛亂兵變を知り狼狽せるも、直ちに日頃積



公館掠奪之跡

一の事もあらばやとて豫てひそかに設けたる床下の避難所へ身を潜めたり。

此頃既に關氏は身を挺して危険を知り屋外に飛び出で門外に向はんとせるも入口に重り合ひて剝脱する多數の保安隊(もう此頃は保安隊ならずして寧ろ破安隊なるが)に圍まれ金品の差出しを強要せられ、全く赤手なりし氏は此處に他に施す可き方法なければ「沒有、沒有」と通

呼彼等の隙をねらひて街路上に脱出、守備隊に避難せんと最後の努力を続けられたるも遂に全く蟻の這ひ出づる間隙もなき逆徒の重圍に陥入り公館門口より約 300 米の三叉路上にて十字に飛び交ふ兇弾を受け壯烈凄絶なる戦死を遂げら



公館掠奪之跡

る。

時に 29 日午前 5 時半。

一方關氏公館を踏み荒し掠奪を逞ふせる叛亂保安隊は更に隣接藤原氏公館へ外部より 10 數發の小銃弾を盲射したる後、内部に入り前以つて支那人ボーイより内通を受け聴取せる家族の數及床下避難所を確め直ちに床上より銃剣を以つて突き差し立て床下避難所に脅威を與へたために危険此上なく遂に藤原氏は意を決し、身を捨て残りの夫人及令嬢を救はんと床板を除きて這ひ出で氏の外に家族なしと支那語にて逃へ決死の努力をせられたれど逆徒の信する處とならず、夫人及令嬢も共に引き出され、兇器の中に金品の提出を強要せられ其所持せらるゝものを奪ふや、彼等は屋内を吾先きにと物色家財調度の類に到るまで掠奪に後れを取らじと、淺ましくも競り合ひ遂に一物も止めざるや、家族 3 名を兇器にて赤手無抵抗の中に門外に拉致せんとし門口に到るに及びて日頃藤原氏一家の顔見知りある一名は藤原氏を除ける夫人令嬢を救出せんと

屋内に引き返すべきを命じれば止むを得ず御兩人約 7,8 歩引返へしたる頃とや思ひけん門外に 3,4 發の銃聲ありたり。即ち此時藤原氏は卑法にも背後より忍び寄り銃火を浴せたる惡鬼の如き叛徒のため千古の恨を呑みて溼と路上に倒れ 37 歳を最後に通州の露と消えられたるなり時に 29 日午前 6 時。

藤原夫人及令嬢はかの一保安隊員より支那服を借受け支那人避難民に變裝して南門外なる米人經營の病院内に遁入萬死に一生を得て鬼畜の虐手より免ぬるを得たるは不幸中の幸と云はざるべからず。

以上が現地にて得た兩氏遺難の大要にて春秋に富み、前途幾多の希望と光明に輝ける氏等の事ども憶ふ時恨みても尙餘りあり。兩遺族の方々の心情を偲びて誰か萬斛の涙を絞らざらん。

關氏は大同 2 年 9 月內務省の推挽にて三重縣道路技手より轉じて滿洲國入りをせられて以來



關氏戦死之處

稀に見る處の覇氣と明敏なる頭腦を講はれ關東軍職任を兼ねらるに及び兵要給水の重要機務にたづさはり熱河方面の主班として縦横に其手腕を發揮せられたるは夙に諸賢の熟知せらるゝ處

なり。ついで更に關東軍司令部の推擧にて當時國策伸展の最前線たる冀察政權成立直後の北支に渡り駐屯軍囑託として活躍、天津に、北平に青島に、さては濟南にと飛躍を續けられ、行く處常に其手腕を發揮し、洗練されたる社交と共に萬人の稱揚おかざる處なりき。康徳 3 年 10 月冀東政府に水利委員會設立せらるるや懇望せられて常務委員及設計處長代理の職務につき同地區内の産業開發諸計畫を確立今や共立案完成の域に達し實施の歩を進められんとせられ、氏の最も華かにして、多年の努力の報いられんとする好機に直面しつゝ今般不測の逆難にて不歸の客となられようとは氏の胸中如何ばかり口惜しき事ならん。嗚呼悲哉。

藤原氏は康徳元年 8 月同じく三重縣土木課より轉じて滿洲國入りをせられ、國道局にありて河川水理調査を擔任、其職務に精勵せらるゝは勿論稀な發明の才に恵まれたる頭腦を以つて困難なる流量觀測法の改良案出あり更に量水標の永久的構造に幾多新形式を發案する等斯界に貢獻する處少からざるものありて吾等齊しく氏のたゆまざる努力の程に驚異と讃仰の目を腫つたものである。外公務にありて此の如く謹直精勵の士なるも私的生活に於ては又圓轉滑脫玲瓏玉の如く、常に微笑を以つて人に接し未だ氏の怒れる風貌を見たるものなしとさへ云はるる圓滿の人格者にて、人をして自ら引きつく處の風格は氏獨特の天成の美德ならん。吾等が腦裡に寫る氏の佛は何時もにこやかなる溫容の外になく懷しさの念に驅らる。小生氏に相見えたる最後は灤河筋踏査の折冀東地區内羅家屯なる小部落にて打合せの爲め落合ひ會食後河岸にて再會を

約し別れたる時なり。氏は舟にて下航する小生等を河岸にまで出で來りお互に其姿を沒する迄白布を打振りて別れを惜まれたるを靜かに憶ふ時其溫容は自から髣髴として腦裡に映じ懷舊の念に驅られて涙さへ出で來るものがある。

以上述べたる處にても自ら氏を知ると知らざるとを問はず其人となりてを想察し得らるゝ事と思惟せらる。

氏が關氏の懇請にて冀東政府設計處入りをせられたのは康徳 3 年末にて爾來該地區内の利水治水の實際的方面に活躍東西奔走席の溫まる間もなき活動を蔭乍ら聞きて氏多年に亘る努力も今や其實を結ばんとするの時機到ると喜び合ひしに、關氏と共に土木技術者としての國策第一線の華と散られ瓦全の吾等と幽明境を距てらるとは夢想だにせざりし處にて氏最後の瞬間を憶ふ時轉た感慨無量心からなる默禱を捧ぐるものである。

さはあれ兩氏の旬職は吾が土木史上に輝しき一頁を飾らるると共に何時の日か吾々土木技術者の手に依り氏等の遺存せる有形無形上の功績を斯界に發揚し其幾多努力の跡に實を結ばしむべきを信じて疑はず、又明朗新支那建設の礎石として永く世人の讃仰を受けらるべし。

兩氏逆難の報傳はるや日本帝國に於ては軍囑託として靖國神社に祭祀を發表せられ、又滿洲帝國にては深く其英才を惜み、關氏は技佐に進め勳七位景雲章を賜り、藤原氏は勳七位柱國章を授けられ共に總務廳主催の下に政府合同慰靈祭を新京に於て執行せらる。氏等の餘榮之に過ぐるものなし。希くば在天の英靈安らけく瞑せられよ。

奉天省土木廳便り

康德 4 年 1 月 1 日舊民政廳土木科と國道局奉天建設處とが合併して吾が土木廳の開設を見ましたことは各位の既に御承知のことと存じます
本年 7 月 1 日通化省の新設に伴ひ管内柳河、輝南、金川、濛江の 4 縣は同省に移管せられ現在 1 市 24 縣に亘る區域を管轄して居ります。

廳長閣下以下傭人迄の總現在員は 132 名(臨時傭人は除外す)で工事費は道路費、河川費、都邑計畫處理費、奉天省復興工作費及最近着手しました奉天市都市防水費等を合算しますと約 170 萬圓に達し何れも豫定の通り進捗しつゝあります。

最近降り續いてゐる豪雨の爲各地方共相當の被害がある模様で目下鋭意調査中であります。

廳内各股からの便りは次の通り

都 邑 股 よ り

滿洲國全般より瞥見せる奉天省各都邑は文化の程度に於て將又交通網充實の點に於て他省に其の比を見ずと雖も之を友邦日本國乃至は歐米諸國の諸都市に較ぶれば所有施設の點に於て同日の論に非ざるべく此處に各縣治安の回復と相

俟つて各々都市計畫を樹立し着々實行に移しつゝあり。

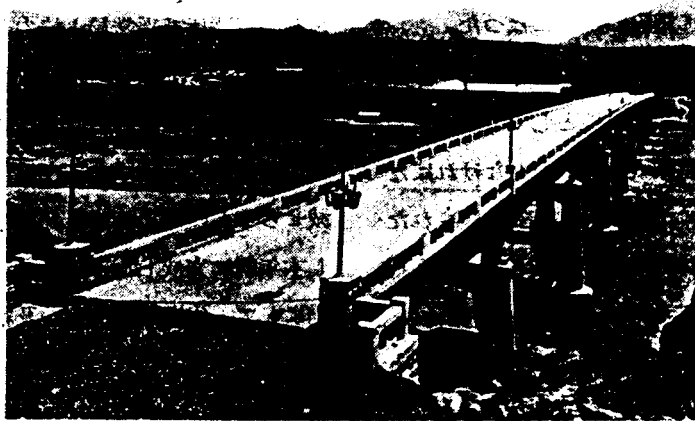
而して現に計畫を實行せるは奉天、梅河口、本溪湖等にして奉天は南滿唯一の商工都市として殷盛國內第一位たるは十目の見る所計畫の目標たる人口百萬人(現在人口 48 萬人)も速き將來を豫期するに及ばずと信ず。梅河口は梅通線及平梅線の基點として逐日躍進の途上に在り、本溪湖は煤鐵公司増産計畫及溪城鐵道の布設等により夫々其の特徴を發揮し異狀の活氣を呈しつゝあり。尙現在計畫立案中に在るものとしては撫順、海城、蓋平、營口、鞍山、新民等此處當分は都邑計畫のラツシュシーズンを現出するものと豫想せらる。

河 川 股 よ り

机の上に奉天省の圖面を擴げてちつと見つめてゐると「随分あるなあ」と思はず聲を出す

「何が」と誰かが問ふとすぐ「川だよ」と出る、こんなに川の多い所に滿洲の文化が盛り立てられて來た事に不思議はない。

古來文明發生の地を尋ねると殆ど川が大きな要素をなしてゐ



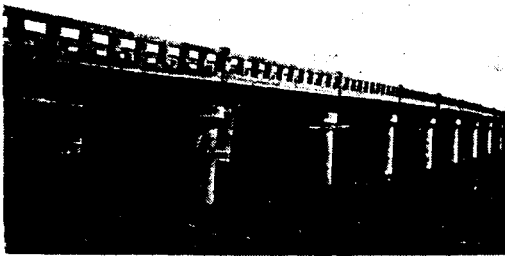
本 溪 大 橋 (道路股記事参照)

る従て川と人、との間には又特別の利害關係がある。

この川と人との緩衝地帯として我が河川股は奉天省に存在してその使命を果さうと言ふのだから我々河川股の役目も相當なものだ河川股も生れた當時から見れば随分としつかりして来た

もう行かふと思ふ所に這ながら行ける様になつた。生れたばかりの所謂河川股をよく面倒を見て育て、來られた劉技佐もどんなにか喜こんでゐらつしやる事だらう。

6月以降新京から佐多技佐、木田技士、長谷



昌 國 橋 (道路股記事参照)

川技士と相繼ぐ精英の士を迎へそれに最近各方面からもどしどし來られ一沫の淋しさのあつた河川股も在來よりの劉技佐、除技士、山形技士その他の人を加へて相當の陣容になつた。

昔の暗い感が一躍明朗化しこれならやつて行けるとなづける。重工業地として又主要農産物の供給地として將來大いに發展しなければならぬ奉天省は既に治安は大半確立し残された問題、産業開發には道路網の完成と共に治水利水は狭くべからざるものである。

この重任の一部を背負つて立つ我々はなんと幸福な事であらう。こうした立脚點にこそ佐多技佐のシャッター一枚の日々の奮闘も意義があり、

劉技佐の大きな身體をあちらこちらと絶間なく働かせて貰ふのも實に愉快な事だ。

今でこそ廳長室のお隣りを間借りした様な河川股だけれどなれるだけちこまつた河川股はこれから奉天省の隅から隅までうんと思ひ切り手足を延ばせて見せようと思込んでゐる。

古來支那では帝王のなさねばならない仕事の一つに治水があげられてゐる。

奉天省の治水もこれからだ。なんでも延びて行く事はそれ自身美しい事だけれど延ばさせて行く事も又美しいものだ。

こうしてやつと腹這かけた河川股が今にもいつかまつて立ち上りそして歩き出すであらう。あんなにしてこんなにしてと河川股も張切つてゐる。

滿洲の皆様こうした希望を持つてゐる我が奉天省の土木廳河川股をより一層指導御鞭建下さる様御願ひしてこの河川股便りを終る事に致します。

道路股より

抑も建國の要諦は治安の確保に在り、治安の確保は道路通信網の完成に在りを「モットー」として軍關係及縣當局と協力し國道、省道、整備道路を合せ不完全ながらも總延長1萬5千裡に垂んとする道路の新設又は改修を敢行したるも、路線内連絡橋梁のなき爲著しく利用價值削減せらるゝの憾あるに鑑み爾來橋梁架設に専念し本年既に完成したる橋梁の主なるもの次の4橋にして、尙實施中のもの及本年度内着手豫定のもの數橋あり。

記

完成橋梁工事概要



蓋 平 橋 (道路股記事参照)

a. 本 溪 大 橋

1. 位 置 本溪縣城東南約 2 軒 3 王攻村地
先奉天—安東國道筋
2. 着 手 康德 2 年 11 月 1 日
3. 竣 功 康德 4 年 6 月 30 日
4. 總工費 26 萬圓
5. 構 造

橋長 273 米

幅員 總幅員 8.05 米

有效幅員 7.50 米

橋體 ゲルバー型鋼板桁

橋

徑間 總 徑 間 272 米

中間徑間 32 米 7 連

兩側徑間 24 米

床版 鐵筋混凝土 モルタル仕上

橋臺 右岸 橋脚式間知石積積立

左岸 扶壁式鐵筋混凝土造

橋脚 二柱建鳥居型 鐵筋混凝土造 8 基

照明 親柱 60 ワット 4 個付 4 基

中間 100 ワット 2 個付 8 基

各徑間毎に千鳥式配置

合計 2,560 ワット

6. 施工 下部工事 高 岡 組
- 鋼板製作 滿 洲 工 廠
- 上部工事 錢 高 組

b. 昌 圖 橋

1. 位 置 昌圖縣城南東方 10 軒 昌圖村馬
昌圖驛西南西方 1 軒 仲河屯
2. 着 手 康德 3 年 8 月 1 日
3. 竣 功 康德 4 年 7 月 10 日
4. 總工費 6 萬圓
5. 構 造

延長 151 米

幅員 全 員 6 米 有效幅員 5 米 50

橋體 鐵筋混凝土造丁型單桁徑間

11 米 62 13 連

橋面混凝土鋪裝、轍當小鋪石敷石

橋臺 栗石混凝土 U 字型

橋脚 栗石混凝土桁圓型

照明 親柱、青銅製燈室 20 ワット

5 燈付 4 基

中間 鑄鐵製燈室 60 ワット 4 基

計 640 ワット

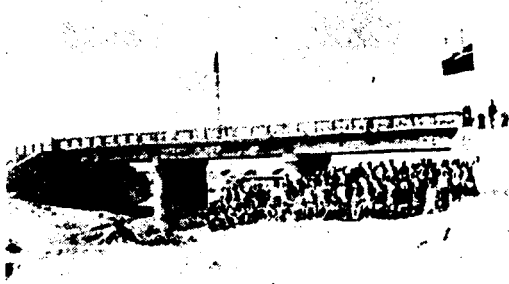
6. 施 工 昭和工務株式会社

c. 蓋 平 橋

1. 位 置 蓋平縣蓋平城外南方 400 米
2. 着 手 康德 3 年 8 月 27 日
3. 竣 功 康德 4 年 5 月 10 日
4. 工費 37,500 圓
5. 構 造

橋長 201 米 40

幅員 全幅員5米80 有效幅員5米
 橋體 木桁單桁徑間 8米 25連
 橋臺 栗石混凝土 重力式



沙 河 橋

橋脚 鐵筋混凝土構柱型

6. 施 工 河 村 組

d. 沙 河 橋

1. 位 置 海龍縣城—梅河口間
 奉吉線沙河驛東南380米

2. 着 手 康德4年3月25日

3. 竣 功 康德4年7月25日

4. 工 費 15,000圓

5. 構 造

延長 22米90

幅員 全幅員 6米80 有效幅員 6米

橋體 鐵筋混凝土造丁型單桁徑間10米60

3 連

橋面シート混凝土鋪裝

橋臺 栗石混凝土 重力式

橋脚 栗石混凝土 重力式

6. 施 工 大 津 組

西部熱河の重要性

熱河省公署 土木科長 山 岸 貞 一

(内 容)

- 1、錦承線による在來交通經濟關係
- 2、錦承線延長に依る影響
- 3、北支熱河一元化後に於ける西部熱河の位置
- 4、東亞北方工作の第一段階

1. 錦承縣による在來交通經濟關係

熱河聖戰後、熱河省の經濟的發展は一面軍事的要求と相俟つて、先づ交通網の充實として具現されつゝある。

即ち鐵路最前線北票を起點とし道路は古北口に結ぶもの及赤峰方面より更に圍場多倫線に延び次で承德、赤峰へと鐵道が敷設された。一方省土木科は經濟的、自然的、政治的方面の見地

より熱河省の南北縱貫道路の整備を計劃し、赤峰、平泉、喜峰口の天津路及承德、興隆、薊縣の北支聯絡路及凌源凌南より綏中への臨海線の3線及各縣中心の文化線への連結路の實施に移つた。此處に熱河は其れ自體何等經濟的向上發展の素地なくして恰も瘦馬に鞭打たるゝが如くこの交通經濟線上を夢中に驀進せざるを得なかつた。其の結果は明かに河北依存の衰頹と、錦承依存の全面的據頭との經濟性の移動であつた。

王道の大旗を靡かせて滿洲が軍閥の羈絆を脱してより日本の凡ゆる援助は驚異的な實質的獨立を完成し次で日滿經濟の提携に進み續けた。

されば熱河省に於ける過去3箇年の歩みはこの新興滿洲國の勢力と在來北支に於ける勢力との經濟的競争を明瞭に物語つてゐる。其の間に於ける西部熱河の受けたる影響は如何と見るに、錦承沿線が錦奉依存に轉換せるに對し、滿洲國の向上發展と云ふ名のみの影響を受けたるに止まり實質的恩恵を受けず却つて對河北貿易の比較的増加を示せるは是非なき次第である。

即ち西部熱河は今日までの交通擴充に依つて受けたる恩恵は其の熱河開發、向上に寄與せる第一次的なるものでなくて其の一次的刺戟に依り發生せる第二次的なるものに止まり其接觸面は依然として舊來の如く河北にのみ依存せるを知るものである。

2. 錦承線延長に依る影響

今假に錦承線延長が將來承德—灤平—鞍匠屯—古北口を経て北京又は通州に接続したとする第一次の結果を以て演繹すれば西部熱河の受くる福利は其南北兩面に於て相當の差がある。尙、河北線と連繫する事に依つて物資の依存關係は更に變化して結局相當の影響を與ふべきも受ける福利は其南方に於て著しくして北方に於て稀薄なるものと思惟せらる。然も其の稀薄化し行く度は地理的距離を超越することは出來ないから従つて南北の均衡を失ふに至るであらう。即ち錦承線延長に伴ふ西部熱河の受くる恩恵は甚だ稀少であるといふことになる、何となれば之は北支よりの直接駟載距離の短縮が殆んど問題にならないからである。

一面熱河西部の灤河、白河、兩水系の源水地にして、山岳重疊し耕地少なく、土地又枯瘦である。地下埋藏物は極めて有望なりと云ふも今

後に俟たねばならない。植林、利水の計畫も一朝一夕には實現し得ないが孜々として倦まざる努力が必要である。更に水力の北支送電は特に注意すべきである。これ等の實施がよく水力地點一帯を開發せる例は吾等の從來幾多經驗せるところである。されど之等の福祉が急速に實現するものとも思はれないことから考へれば道路網の擴充なき限りこの西部熱河方面に於ける能動的産業開發は錦承線延長に依りて第二次的刺戟を受くるのみにして何等直接の影響を受けず、寧ろ足踏みの瘦馬を一層鞭打つことになるであらう。茲に此の西部熱河の交通網の充實の重要性がある。即ち一面延長鐵道の培養線となると共に鐵道の有する資本主義經濟性の是正と相俟つて街村經濟の一元化整備の素地を築かしめんとするものであることを主張せんとするものである。

3. 北支、熱河一元化後に於ける西部熱河の位置

現時北支事變に依り發生すべき新事態は今日に於て豫斷を許さずと雖も、第一次として兩者和親の濃厚より第二次的に少なくとも經濟的一元化に向ふに至るべきは當然であらう。

道鐵が大量輸送の點に於て遙かに有利であることは勿論であるが其の輸送範圍が地域的に局限されること、投下資本の償却を必要とする關係上物資の輸送集散價值に於ける道路が第一義的重要性であることは今更架説するを避けるとは云へ茲に論議しつつある西部熱河地域に於ける道路擴充の重要性を更に更に痛切に感ずることを強調せんとするものである。

況んや共匪剿討の世界的任務を負へる日滿國

防線の確保を考ふるに於ては西部熱河の地理的重要性は敢て茲に論ずる迄もない、随つて其交通網の擴充が文化的に軍事的に産業的に絶對的價値を有することを知るであらう。

4. 東亞北方工作の第一段階

綏遠、山西の鑛産物、大蒙古草原の畜産物、河北の農産物は東亞經濟上見免し得ざる主要なる資源である。此等物資の移動が日滿經濟の據點たる以上之等豐源生産の確保は絶對である。即ち一路王道を振り翳し、東方文化を根基としこの豐源生産の獲得に邁進せんとするものである。惟ふに北支以南の大平野と大蒙の廣原との間を横はる陰山山脈の嶮を横斷して西走するものに平綏鐵道の交通線がある。又之が北方 300 軒に多倫より赤峰に出づる道路がある。而してこ

の中間こそ實に西部熱河の山岳重疊の地帯であつて興安嶺山脈と陰山山脈とが相交錯し地理的に複雑難解な蹙曲劇を演ぜんとする序幕である。然かも西部熱河の展開線は恰も豊寧を中心とし 130 軒の半徑を以て西に向つて畫ける 20 軒の弧線に匹敵する。即ちこの弧が更に放射して内外蒙古は勿論、綏遠、寧夏、新疆より遠くソ聯一帯の地域に王道の光を投げんとする探照燈の役割を勤める姿勢である。然かもこの探照燈の光源こそ偏に道路の整備に俟つのみであつて展開面 200 軒の「レンズ」を通るこの放射線が禽獸草木は愚か共匪であれ、赤魔であれ、凡ゆる一切のものを一字に掩はんとするものであつて敢て吾人がこの西部熱河の道路擴充工作を以て實に大義を四海に布く第一段階であることを強調する所以である。